

ちびっこ チャンピオン

「満開のサクラが咲いたよ」

みよし保育園のなかよしたち

(左から)

- したや とうじくん (5さい)
- かねひら このはさん (5さい)
- たばた ほのかさん (4さい)
- よした えいたくん (4さい)



このコーナーでは、元気いっぱいな園児達の作品をご紹介します。



5月生まれのお子さんの写真を募集します!

問合せ先 総合戦略課 TEL 74-2122
E-mail kouhou@town.fukaura.lg.jp

- ◆対象 令和5年5月に1～5歳の誕生日を迎える町内在住の子
- ◆掲載内容 子供の写真、氏名(ふりがな)、住所(地区のみ)、生年月日、お子さんに一言メッセージ
- ◆応募方法 郵送または持参の場合: プリントした子供の写真1枚に、①子供の氏名(ふりがな)、②生年月日、③性別、④住所、⑤保護者名(広報には掲載しません)、⑥電話番号⑦お子さんに一言メッセージを記入したものを添えてください。メールの場合: 件名に「こんなに元気で」と記入し、本文に上記①～⑦を記入のうえ、写真データを添付して送信してください。応募締切は4月21日です。

草創教育長の

「今月の一枚」

勉強だつきゃ

二十代、北郡のある漁村の小学校に勤務した頃の話です。まだ浜が十分に活気づいていた時代です。イカ、カニ、メバル、ウニ、マスコ:保護者からも地域からも、ずいぶん海の幸が届き、独身の冷蔵庫をにぎわしてくれました。

また、漁師の保護者に気に入られると、祝い事の酒席にも呼ばれ、「明日、学校なので」という声も無視され朝まで飲まされました。今だと、叱られそうな話です。

そんな時、酒も回った父親から、よくこう言われました。「センス、オイのワラシも漁師やるハンデ、勉強だつきゃナモわがねくていい。船舶の免許取れるぐらいいいんだ。いらねぐモノ覚えれば、村がら出でいってまる。」

本音だったはずですが、「とる漁業」がまだまだ通用し、一日の漁で百万円単位でふところに入ってくる時代。実際、若い漁師たちが超高級車を平然と乗り回していました。

時代は変わりました。気候変動や資源枯渇等も影響し、どこの浜も漁獲量の減少が続いています。漁業に限らず、農業も林業も高齢化と後継者不足、そして労働内容の厳しさが、しつこい課題になっています。

門外漢の言葉には説得力もありませんが、AIやロボットを

導入した経営、衛星データやドローンを使用した作業、六次産業化による販路の拡大や輸送コストの削減など、課題に対応した新しい作戦がますます必要はなはず。

「勉強だつきゃナモ:」は、もはや通用しない状況です。学校でも、郷土の課題を見つけ、子どもなりにその解決策を考える時間があります。町の人口減少をとめるにはどうする? 町のスマート農業・漁業をどう進める? 観光の新しい目玉商品は? :

稚拙でも、そのアイディアの斬新さに大人もハッと胸をつかれる時もあります。

子どもを郷土にしばらく、その将来を負わせることを、最上位の目標にはできません。

むしろ、自分の将来には、実に多様な選択肢と可能性があることに気づかせる。そして、互いの多様性を尊重しつつ、一杯自己実現に励む力を育てる。

それが、学校です。今年度も、本質を踏み外さず努めてまいります。

(教育長 草創 文人)

